

2003年日高洪水堆積物の海域における堆積様式

Mode of deposition of 2003 flood on the Hidaka shelf, Hokkaido, Japan

池原 研 [1]; 片山 肇 [2]; 嵯峨山 積 [3]; 菅 和哉 [4]; 辻野 匠 [5]; 入野 智久 [6]; 大村 亜希子 [7]

Ken Ikehara[1]; Hajime Katayama[2]; Tsumoru Sagayama[3]; Kazuya Suga[4]; Takumi TuJino[5]; Tomohisa Irino[6]; Akiko Omura[7]

[1] 産総研・地質情報; [2] 地調・海洋; [3] 道立地質研・海洋地学; [4] 道立地質研・海洋; [5] 産総研・地質; [6] 北大・院地球環境; [7] 東大・海洋研

[1] IGG, AIST; [2] Mar. Geol. Dep., GSJ; [3] Marine Geosci., Geol. Surv. Hokkaido; [4] Marine, Geol.Surv.Hokkaido; [5] GSJ/AIST; [6] EES, Hokkaido Univ.; [7] ORI/Univ. Tokyo

2003年の北海道日高地方の洪水時に海域に供給された堆積物の分布や構造について調査した。2005年の調査時点では、この洪水堆積物は沙流川などの沖合の数点で認められた。これらの堆積物は低海水準時の谷地形の中にのみ認められ、一部ではハンモック状斜交層理を持つ。また、沖合の半遠洋性泥に比べて、明らかに陸源有機物に富む。洪水時に陸上河川から供給された土砂は、主には低海水準期に河川が作った谷筋に沿って、高密度の複合流として沖合に輸送されたと推定される。